



ぬくもり群馬

2026 Autumn

P2 会長挨拶

P3 副会長挨拶

P4 理事紹介

P5 理事紹介

P6 第2回群馬県
医療ソーシャルワーク学会

P7 委員会紹介

会長挨拶



狩野 寛子

老年病研究所附属病院

皆さまにおかれましては、日頃より群馬県医療ソーシャルワーカー協会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、皆さまのご協力のもとおかげさまで60周年記念事業を開催でき、会として心機一転の志をもって新たな歩みを始めました。

超高齢社会の進展と地域包括ケアシステムの深化に伴い、私たち医療ソーシャルワーカーを取り巻く環境は大きな変化の渦中にあります。本年度は、診療報酬の通常改定と、介護報酬の臨時改定とともに、社会福祉法の一部改正が決議された節目の年でもあります。

診療報酬改定においては、医療機能の分化と連携、重症化予防、そして地域や在宅医療へのスムーズな連携がより一層重視されています。その中で病床機能に応じた入退院支援の充実化や、地域医療構想を踏まえた multi-professional（多職種）連携における医療ソーシャルワーカーの実践力・交渉力が試される場面が増加していくことは間違いありません。また、社会福祉法の改正をはじめとする福祉制度の見直しは、地域共生社会の実現に向け、福祉ニーズの多様化・複合化に対応する包括的支援体制の構築を求めています。

こうした複雑で多角的な課題に応えるため、当協会では群馬県社会福祉士会および群馬県精神保健福祉士会と共に群馬県ソーシャルワーカー連盟として協働を推進しております。医療・福祉の枠組みを超えたソーシャルワーカー同士の緊密な連携は、支援を必要とする住民の皆様一人ひとりの生活権利を守り、ネットワークを提供する基盤となります。連盟での合同研修や情報共有の機会を重ねることで、群馬県内におけるソーシャルワーク全体の質的向上を目指してまいります。

時代の転換期にあっても、私たちの原点は「患者・生活者の声に耳を傾け、その人らしい生き方を支える」ことにあります。社会や制度の変容に柔軟に対応しながら、専門職としての理念を胸に、会員の皆様と共に歩んでまいりたいと存じます。今後ともより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。



副会長挨拶

高橋 博明

伊勢崎市民病院

関係機関の皆さまには、日頃より当協会の運営にご協力いただき、心より感謝申し上げます。今年度より群馬県医療ソーシャルワーカー協会の副会長に就任いたしました、伊勢崎市民病院の高橋博明です。このような大役を仰せつかり、その責任の重さに身の引き締まる思いです。



私自身、医療ソーシャルワーカーとして歩み始めて28年が経ちました。1929年に聖路加国際病院で浅賀ふさ氏らが一步を踏み出してから約100年、私が歩んできた軌跡もまた、その歴史の一部なのだと思うと、改めて重みを感じています。先輩方が大切にしてきた「患者さまとご家族の暮らしに寄り添う」という原点を大切に、時代の変化に柔軟に対応しながら、会員の皆さまと一緒に良い実践のあり方を考え、一步ずつ歩んでいきたいと考えております。

微力ながら、狩野会長を始め役員一同、会員の皆さまが専門職として悩みを分かち合い、共に資質を向上させながら活躍できる温かい協会づくりに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

関上 里子

群馬大学医学部附属病院



令和8年度の総会より、当協会の副会長に就任いたしました、群馬大学医学部附属病院の関上里子と申します。入会して30年余り経ちましたが、新人当時は右も左もわからない一人職場でのスタートでブロック会の事例検討会が待ち遠しく、また同期の集まりもあり当協会が拠り所でした。

当協会なくして現在の自分自身は存在しないといっても過言ではありませんし、諸先輩方のご指導や仲間たちとのつながりのおかげだと感謝しております。社会福祉士の資格制度に揺れていた時代からは想像もつかなかった現在の診療報酬上の位置付けにはなりましたが、私たちソーシャルワーカーは、日々、患者家族の言葉を通して社会で起きている課題が何なのかを学び続けていくことに変わりはありません。

協会員のみなさまには、所属機関の枠を超えて他機関のソーシャルワーカーと交流し、学び、支え合える、そのような場所に当協会がなれますよう微力ながら尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



今期の理事をご紹介します！

理事紹介

introduction



東毛

神澤 光
明和セントラル病院

今年度より理事を務めさせていただく、明和セントラル病院の神澤です。また、広報担当理事として広報委員会と連携しながら協会の情報発信を担当いたします。

理事としての活動は初めてであり、不慣れな点も多いですが、会員の皆さまに協会の動向を分かりやすくお伝えし、広報を通じて会員相互のつながりを深められるよう努めてまいります。ホームページやSNS、広報誌などを活用し、会員の皆さまへの情報発信はもちろん、協会の活動や魅力を広く発信し、協会外の方々にも当協会を知っていただけるよう取り組んでまいります。

より良い協会運営に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

東毛

山口 利佳
恵愛堂病院

皆様、お世話になりありがとうございます。私が理事を務めさせていただいて今回で、3期5年目になります。今年度も理事としてよりよい協会運営に携われればと心新たに、わくわくしています。

引き続き会計担当となります。会計担当には協会の運営を支えるための管理が色々ありますが、今後も継続的に事業を行っていくという観点から、必要経費の計上と節約のバランス、会費納入の方法や管理の改善など、新たなことにも着手していければと思います。これからも会員にとってこの協会が安全かつ意義のあるものになるように理事として楽しみながら尽力していければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

東毛

津田 至
太田記念病院

SUBARU健康保険組合 太田記念病院の津田至です。理事は今期で4期目になります。東毛ブロックの事務局と調査研究委員会の担当理事をしています。

MSWはいくつになっても学び続けることが大事な職種だと思います。学び繋がる場として、個々のスキルアップはもちろん、地域全体でスキルアップしていけるような協会を目指して努めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

ちなみに、ラーメンとスイーツが好きなので、おすすめのお店があったらぜひ教えてください。



中毛

碓井 祐太郎
前橋赤十字病院

前橋赤十字病院の碓井と申します。理事として承認いただき3期目となりました。

今年は業務指針の改定や業務基準の策定、当協会としても定款の変更がありましたし、世間的にはDX推進が急激に進むなど、さまざまな面で転換期にあると感じています。

これまででは目の前の理事業務に追われていたところもございましたが、3期6年目となりましたので、広い視点で、我々職能団体としても変化に対応できるよう理事として、会長や副会長を支え、会員の皆様のための協会となるように微力ながら頑張りたいと思います。

中毛

中井 正江
自宅会員

長年MSWとして医療福祉の現場に携わり、そのうち約30年間、群馬県医療ソーシャルワーカー協会の理事を務め、会長を11年間、顧問を4年間務めてまいりました。定年退職を機に、再び理事・事務局長として協会運営に携わることとなりました。

現役のMSWが日々の業務と協会活動を両立することは容易ではありません。これまでの経験を生かし、少しでも協会運営を支え、会員の皆様が安心して活動できる環境づくりに貢献したいと考えています。事務局員のメンバーと共に会員相互のつながりを大切にしながら、医療ソーシャルワークの発展と、県民の皆様へのより良い支援につながる協会づくりに努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

ぬくもり群馬

2026 Autumn



西毛

山田 拓哉 高崎総合医療センター

この度、理事を務めさせていただくことになりました高崎総合医療センターの山田と申します。西毛ブロック事務局とスーパービジョン委員会を担当させていただきます。理事の活動を通じソーシャルワーカーとしてスキルアップ出来るよう研鑽していきたいと思ひます。

また、能登半島地震における日本医療ソーシャルワーカー協会の支援活動では、群馬県医療ソーシャルワーカー協会からも多くのサポートいただき無事に活動することが出来ました。ありがとうございました。

微力ながら協会運営のサポートが出来ればと思っております。よろしくお願いいたします。

西毛

川井 大輔 公立藤岡総合病院

このたび理事を務めさせていただくことになりました、公立藤岡総合病院 患者支援室の川井大輔です。

日頃は医療ソーシャルワーカーとして、退院支援や地域医療連携などに携わっています。理事としては、人権擁護・身元保証検討委員会、研修企画委員会を担当しております。

会員の皆様とともに学び、現場の声を大切にしながら、協会活動を通じて医療ソーシャルワーカーの専門性向上と地域福祉の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



北毛

小淵 匡 利根中央病院

利根中央病院の小淵と申します。理事として承認いただき4期目となり、通算では9期目となりました。長きに渡り理事として務めさせていただいていることに感謝申し上げます。

理事として広報委員会と災害支援対策委員会を長らく担当させていただいていますが、今期も広報委員会と災害支援対策委員会を担当させていただきます。

広報委員会と災害支援対策委員会が担当ではありますが、自分が担当する部分だけでなく、時代の変化に合わせた協会運営に微力ながら貢献していければと思っています。



北毛

山浦 美和子 渋川医療センター

前任期に引き続き研修担当理事を務めさせていただくことになりました渋川医療センターの山浦と申します。

当協会の研修体系は、研修企画委員会にて企画する研修の他、各委員会やブロック毎の研修、近年では群馬県ソーシャルワーク連盟主催研修や群馬県医療ソーシャルワーク学会など様々な形で実施されており、幅広い学びの機会が用意されていることは、当協会の大きな魅力であり、誇るべき特色の一つであると感じています。

研修を通じて会員同士のつながりや学びが深まる機会を提供できるよう取り組んでまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

北毛

原田 航輝 群馬リハビリテーション病院

この度、理事を務めさせていただくことになりました。これまで協会の活動を通して、多くの方々に支えていただき、たくさんの方を学ばせていただきました。

初めての理事就任で不慣れなことも多く、戸惑う場面もあると思ひますが、皆様に教えていただきながら、一つひとつ経験を積んでいきたいと思ひます。

今年度は、研修理事とリレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんまの理事を務めます。会員の皆様にとって実践につながる学びの機会や、会員同士がつながる場を大切にしながら参加していただける活動を目指して取り組んでいきます。

微力ではありますが、MSWの発展と協会のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

北毛

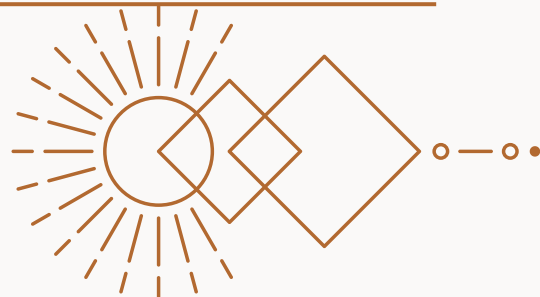
関口 奈津希 原町赤十字病院

原町赤十字病院の関口です。今回で理事3期目となりました。理事を引き受けた当初は、自分に務まるのだろうかと不安でしたが、理事会メンバーの皆様の温かいサポートのおかげで、なんとかやってこられました。

今期は、自分の担当業務に加えて、会員の皆様が「理事をやってみようかな」「委員会や実行委員に挑戦してみようかな」と感じていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。

微力ではありますが、会員の皆様のお役に立てるよう力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

第2回 群馬県医療 ソーシャルワーク学会



実行委員長 小川 晋平
(群馬リハビリテーション病院)

2026年5月17日(日)13:30より、群馬県社会福祉総合センター大ホールにて「変化する時代における専門性の再構築」を大会テーマに据え、第2回群馬県医療ソーシャルワーク学会を開催し、多数の会員に参加いただきました。

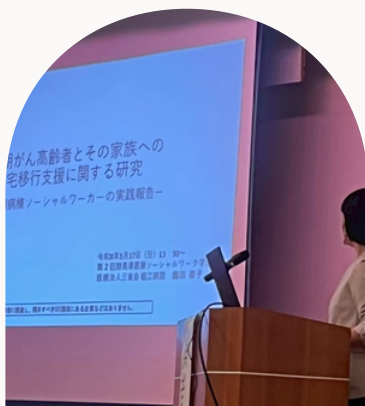
今回の学会では8名の方から演題の応募があり、日々の実践や研究の成果を発表いただきました。各演題には共通した特徴があり、大会テーマである“変化する時代”に合致した内容でした。

具体的には、がん患者と家族への在宅移行支援、大規模災害時におけるがん相談支援センターの役割、脳卒中両立支援調査、身寄りなし患者支援ツール作成、身寄りのない患者の困難事例における支援、児童虐待に対する意識調査、ユニフォーム変更に関する取り組み、対話型生成AIを応用したMSWケーススケール作成というように、まさに現代の変化する時代における課題に対する実践や研究に取り組んだ成果が発表され、座長や会場の参加者との質疑応答を通じて、理解を深めることができたと感じています。

2026年3月13日に医療ソーシャルワーカー業務指針が改正され、厚生労働省医政局長通知として発出されたことは記憶に新しいと思いますが、改正された業務指針において、『四医療ソーシャルワーク部門の体制整備(4)研鑽、調査及び研究の促進』という項目で調査及び研究を促進することが示され、公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会が業務指針の子細として策定した医療ソーシャルワーカー業務基準においても『自己研鑽及び調査、研究に取り組むことができる環境整備を行うこと』が記載されています。

今後、調査や研究に取り組む会員が増え、本学会が群馬県における医療ソーシャルワーク発展の一助となることを願っております。

最後になりますが、発表いただきました8名の方をはじめ、座長を務められたお二方、学会実行委員、そして参加された会員の皆さま、誠にありがとうございました。





委員会紹介 研修企画委員会

委員長 山浦美和子
(渋川医療センター)

研修企画委員会では、ソーシャルワーカーの知識・技術・価値に基づく専門性の向上と質の担保、医療ソーシャルワーカーとして成長していくための体制整備や人材育成を目的として活動しています。

当委員会が企画・運営している主な事業として、「新人研修」「学生向け研修」「全体研修」「グループ活動サポート事業」があります。

「新人研修」では、入職間もないソーシャルワーカーを対象に基礎を学ぶ機会を提供するとともに、不安や期待が入り混じる時期に同期とのつながりを築ける場となるよう企画しています。本研修は日本医療ソーシャルワーカー協会の認定ポイントの付与対象となるようシラバスを整え、同協会が実施する基幹研修へのステップアップを意識した内容としています。「学生向け研修」では、これから社会へ羽ばたく学生を対象に、現任のソーシャルワーカーが直接話をするすることで、医療ソーシャルワーカーという仕事をより身近に感じ、将来を考えるきっかけとなることを目指しています。「全体研修」では、診療報酬改定や医療福祉現場におけるAI活用、面接技術など、時宜にかなったテーマや関心の高いテーマを取り上げるほか、著名な講師を招いた研修会も開催しています。「グループ活動サポート事業」では、ソーシャルワークに関する調査・研究・研修に取り組む会員の自主的なグループ活動を支援しています。

近年では群馬県医療ソーシャルワーク学会や群馬県ソーシャルワーク連盟主催研修の運営にも協力しています。

医療・福祉を取り巻く環境や社会の変化に伴い、医療ソーシャルワーカーに求められる役割や支援のあり方も変化し続けています。研修企画委員会では、会員の皆さんの学びと成長を支える場として、これからも実践力を高められる研修を企画し、より質の高い支援を実現できるソーシャルワーカーの育成に寄与できる活動を続けていきたいと考えています。



ぬくもり群馬

2026 Autumn

令和8年9月30日発行

編集発行：広報委員会

ぬくもり群馬

2026 Autumn

編集後記

「ぬくもり群馬 2026秋号」をご覧いただきありがとうございます。

暑さの厳しかった夏が過ぎ、少しずつ秋の気配を感じる季節となりました。
この夏は、全国的にも県内でも局地的な大雨や水害が相次ぎました。災害が起きるたびに、日頃からの備えや、地域で支え合うことの大切さを改めて考えさせられます。

医療ソーシャルワーカーも、病院の中だけで支援を完結するのではなく、地域のさまざまな人や機関とつながりながら、暮らしを支える役割を担っています。災害時においても、平時から築いてきたつながりや地域との関係が、支援の基盤になるのだと思います。

「地域」「つながり」という言葉を、決して遠い話として捉えるのではなく、日々のソーシャルワークの中から考えていく。そんなことを意識しながら、これからも皆さまと一緒に地域の課題について考えていければと思います。

秋の深まりとともに、皆さまの活動が実り多きものとなりますことを願っています。

次号は2027年3月に「春号」発行を予定しております。どうぞお楽しみに。

SNS

ホームページ

<https://mswgunma.or.jp/>

Facebook

<https://www.facebook.com/gmswa/>

Instagram

<https://www.instagram.com/gunmamsw/>



広報委員会

原島	歩志	(老年病研究所附属病院)
長野	明日香	(高崎総合医療センター)
神澤	光	(明和セントラル病院)
小淵	匡	(利根中央病院)
小川	貴之	(桐生市医師会)
麻下	未帆	(希望館病院)
鹿木	春花	(イムス太田中央総合病院)
渡邊	凌佳	(前橋赤十字病院)
長峰	雅史	(前橋赤十字病院)

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

事務局 〒377-0007

群馬県渋川市石原2404-37

(おがた社会福祉士事務所内)

Tel:080-2308-1599 Fax:0279-51-9884

